

# 言葉の力

通称「ことちか」

令和7年2月3日発行

第3号

福島県教育庁義務教育課

## 担当学年の指導事項は全て確実に取り扱いましたか？

今年度も残すところあと2か月となりました。学習指導要領に示されている担当学年の指導事項は全て確実に取り扱ったでしょうか。1年間の児童生徒の学びや自分の授業を振り返りながら、ぜひ確認していただきたいと思います。さて、今回は教材研究のちょっとしたコツを紹介します。

## その3 限られた時間で、ポイントを押さえた教材研究をしたい！

教材研究は、教材分析、単元構想、評価計画、発問、板書計画、ICTの効果的活用など多岐に渡りますが、もっとも大切なのは「育成する資質・能力を明確にすること」です。

そこで便利なのが、学習指導要領解説国語編の付録4「教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表（※以下「系統表）」です。（小：P196～P207、中：P166～P177）

例えば、[B 書くこと]の「推敲」の指導事項は、次のように並んでいます。（一部抜粋）

(小) 第3・4学年	(小) 第5・6学年	(中) 第1学年	(中) 第2学年
エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。

「推敲」は、簡単に言えば「よりよい文章にするために何度も練り直すこと」ですが、各学年の指導事項を見ると、同じ「推敲」でも育成する資質・能力に明確な違いがあることが分かります。例えば、小学校第5・6学年の「推敲」は、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること」とあります。ここを確認することで、当該学年で指導すべきポイントを押さえた教材研究ができるようになります。以下の例を参考に、ぜひ実践してみてください。

### 【「系統表」を有効に活用した教材研究】

- ① 付録4の「系統表」を印刷または端末に保存し、いつでも確認できるようにする。

【小学校学習指導要領解説国語編】 →



【中学校学習指導要領解説国語編】 →



- ② 今、教材研究しようとしている単元や教材で、どの指導事項を扱うのかを決める。  
→「知識及び技能」から1つ、「思考力、判断力、表現力等」から1～2つ程度とします。
- ③ 扱うことを決めた指導事項は、「系統表」にチェックしておく。  
→授業を行っていくにつれ、未修の指導事項が絞られていきます。
- ④ 前後の学年の指導事項と、文言が異なる部分に着目する。そこが当該学年の指導のポイントになる。  
→文末だけを見ていると、各学年の違いが不明確になりがちです。
- ⑤ 指導事項に使われている文言を基に、発問や評価方法を考える。  
(例) 第3・4学年 [B 書くこと] の「推敲」  
→「これから入学してくる新入生という『相手』に、学校の楽しさを伝えるという『目的』で書きましたね。自分の書いた文章の『表現』は、『相手』と『目的』にふさわしいものになっていますか。」と問うことで、子どもに推敲のポイントを自覚させることができます。  
→振り返りの場面では、「どのような『間違い』をどのように『正した』か。」「『相手』や『目的』を意識して、どの『表現』をどのように直したか。」この2点が分かるように子どもに記述させることで、指導事項に沿った適切な評価ができます。